虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です

虹の架橋

第３７０号
令和８年６月１日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL ０２７７－７３－１２１２
Fax ０２７７－７０－１０６６

今月の題字
松﨑　弘さん
（みどり市東町花輪）
大間々足利屋の本家で創業130年の花輪足利屋の4代目。共に創業者の血をひく「はとこ」同士。地域貢献をしながらに地域密着店を守り続けています。

みどり市２０周年記念ポロ六月一日から予約受付開始

みどり市は、２００６年３月２７日に、新田郡笠懸町、山田郡大間々町、勢多郡東村が合併し、今年で市制施行２０周年を迎えました。今年の義援金付クールビズポロシャツは、２０周年を記念して作られたシンボルマークを右胸にプリントし、左袖には横向きに座る「みどモス」の刺繍が入っています。

義援金付クールビズポロシャツは２０１１年の東日本大震災の被災地を支援するために始まった企画で今年で１６回目。

今年集まった義援金は、能登半島の復興支援のために使われます。

みどり市では２０周年に合せて「みどりつづくみらいつなぐ」を合言葉に、温泉施設「みどモスパ」の開業、富弘美術館や岩宿博物館のリニューアル、旧サンレイク草木の跡地に滞在型宿泊施設建設。運動施設を中心とした、（仮称）グリーンパークの計画などが進められています。みどり市はこれからも発展して行きます。

みどり市義援金付ポロシャツ
・ﾎﾟｹ付ﾎﾞﾀﾝﾀﾞｳﾝﾎﾟﾛｼｬﾂ S～5L
・ﾎﾜｲﾄ、ﾌﾞﾗｯｸ、ｻｯｸｽ、ﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ
ｼﾙﾊﾞｰｸﾞﾚｰの5色
・右胸にﾌﾟﾘﾝﾄ、左袖に刺繍入り
・税込1,950円（義援金300円込）
3L以上は300円高
・色見本、ｻｲｽﾞ見本は足利屋とさくらもーるアスクに用意してあります。0277-73-1212

小耳にはさんだ　いい話

（文責・靖）
《370》

毎年5月の第3土曜日に開催される『富弘美術館を囲む会支部長スタッフ会議』には、ロサンゼルス支部をはじめ、全国各地から支部長やスタッフが百名近く集まり、情報交換や親睦を深めています。今回、三重県支部長の田上啓子先生から『ぺんぺん草』という冊子いただき、それを読んで感動しました。

田上先生には、長い教師生活の中で、忘れられない少年がいました。ある時、田上先生は授業の中で生徒達に星野富弘さんの『ぺんぺん草』の詩を紹介しました。「神様がたった一度だけこの腕を動かして下さるとしたら…何をしたかったと思う？」と生徒達に問いました。生徒たちからいろいろな答えが出てくる中で、豊田聖（せい）君が「お母さんの肩をたたく」と言い当てたのです。田上先生はその言葉を聞いたとたん、驚いて笑顔のまま涙をポロポロ流しました。

ぺんぺん草の子

『ぺんぺん草』の詩は、**『神様がたった一度だけこの腕を動かして下さるとしたら母の肩をたたかせてもらおう　風に揺れるぺんぺん草の実を見ていたら　そんな日が本当に来るような気がした』**という詩です。富弘さんは体育教師になったばかりの2か月後、部活の指導中にケガをして首から下が全く動かなくなってしまいました。

9年間の入院生活の間、お母さんはずっと病院の簡易ベッドで富弘さんに付き添いました。この詩は、お母さんが時々、辛そうに自分で肩をたたいている姿を見た富弘さんが入院9年目に病院で書いた作品でした。

「お母さんの肩をたたく」と言い当てた聖君には、重度の障害を持ったお姉さんがいました。そのお姉さんを献身的に介護するお母さんの姿をいつも見ていた聖君も、富弘さんのように、お母さんへの感謝の気持ちを持ったのだと思います。

一昨年の4月29日、聖君が35年ぶりに田上先生に会いに来てお母さんやお姉さんや中学時代の話をしたそうです。その日は田上先生の金婚式の日で、富弘さんが天に召された翌日でした。偶然とはいえ、不思議なことがあるものです。

絵：豊田 聖

世界一小さな足利屋トイレ美術館

今月の絵《３７０》
星野富弘さん『結婚指輪』

足利屋に星野富弘さんの代表作『結婚指輪』のリトグラフがあります。「結婚ゆび輪はいらないといった　朝、顔を洗うとき私の顔をきずつけないように、体を持ち上げるとき、私が痛くないように、結婚ゆび輪はいらないといった今、レースのカーテンをつきぬけてくる朝日の中で、私の許に来たあなたが洗面器から冷たい水をすくっている　その十本の指先から、金よりも銀よりも美しい雫が落ちている」という言葉が添えられています。この作品は、１９８１年、結婚直後に奥様の昌子さんが絵具を混ぜる手伝いをして完成させた第一作目でした。

靖（やっ）ちゃん日記

令和8年5月20日（水）
足利屋の定休日を利用して、夫婦で歌舞伎座へ行った。和子は何度か観ているが、自分は初めて。娘の恭子に教わった通り、東銀座駅の改札口を出た左手の売店で弁当を買い、券売機で、10桁の数字を押してチケットを交換。教えられた通り、音声ガイドを借りて、解説を聴きながら芝居を観た。一幕の南総里見八犬伝も二幕の菊五郎の一人五役の早変わりも辰之助襲名口上も楽しめた。一幕と二幕の間に幕の内弁当を食べた。舞台の大きな緞帳は、前橋出身の人間国宝の講談師・神田松鯉さんの寄贈だった。歌舞伎の後、西荻窪で一年前に息子の彰人が始めたレコード・バー・ロリンへ寄った。入口に一輪の花が飾ってあった。ノンアルコールのカクテルやレモンスカッシュやアイスを食べ、「マッカラン」というウイスキーを飲んで顔がマッカになった。五千円と言われたが一万円払った。昔から酔って帰ると飲み屋と間違えて家族たちにも「チップ」を配っていた。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん

真夏日やバシャバシャバシャと手押井戸

今年も5月から真夏日を記録していました。足利屋の庭には百年前からの井戸があり、手押しポンプを押すと水が勢いよくバケツにはねて涼しさを感じます。大間々では、昔ながらの屋敷には井戸と屋敷稲荷様がありました。路地には公共の井戸もあり、「井戸端会議」と言われるように井戸はコミュニケーションの場でもありました。現代では会議もオンラインで行われるようになり、井戸も使われなくなってしまいましたがバシャバシャと水が跳ねる音を聞いていると、井戸の周りで遊んでいた遠い昔の記憶が蘇ってきます。

虹の架橋←検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百七十一号は令和八年七月一日（水）発行予定です。